



そしん

第42号



発行/社会福祉法人 素心会
 責任者/事務局次長 高瀬 尚人
 〒259-0103
 神奈川県中部大磯町虫窪 39番地 1
 TEL.0463-71-1255
 レイアウト・印刷 貴峯荘ワークピア

素心会での日常生活の一部をご紹介します。

4面に続く



★グループホーム



★利用者の会



★海岸美化清掃



★美化センターでの実習



虫窪24番地

むしくぼ 24番地

昨年の夏、北京五輪が開会式から17日間の熱闘を経て閉会となった。前回のアテネ大会からもう4年という月日の流れの早さに驚きを感じつつ、日本選手団の活躍を応援していた。私は、学生時代は体育会系のテニス部に所属していたものの全く成績は振るわず、栄光とは無縁の身であったが、実力差が明確な強敵にも一矢報いることが大事だと思っていた。勝負はやってみたいとわからないうちはいいけれど、実力差から既に大勢が決していることも多い。しかし、そんな勝負に臨み、一矢報いて去っていった敗者達にも賞賛を送りたいと感じた。

(素心学院 大野 裕史)

理事会・評議員会の動き

- 第十一回評議員会
平成十九年十二月十九日(水)
平成十九年度資金収支予算の補正を承認。
- 二 居宅介護事業の実施を承認。
- 第一四九回理事会
一、二号議案とも評議員会と
同じ。
- 第十一回評議員会
平成二十年三月二十四日(月)
一定款の一部変更を承認。
- 二 平成二十年度事業計画を承認。
- 三 平成二十年度予算を承認。
- 四 素心学院の障害者支援施設(生活介護及び施設入所支援の実施)への移行(事業計画、予算、運営規程)を承認。
- 五 知的障害者更生施設、素心学院の廃止を承認。
- 六 地域支援センターそしんにおける移動支援事業の実施(事業計画、予算、運営規程)を承認。
- 七 二宮町・大磯町地域自立支援協議会(仮称)事務の受託を承認。
- 八 給与規程の一部改正を承認。
- 第一五〇回理事会
一、八号議案まで評議員会と同じ。
- 第十二回評議員会
平成二十年五月二十七日(火)
平成十九年度事業報告。
- 一 平成十九年度決算報告、監事監査報告の後、事業報告と合わせ承認。
- 二 任期満了に伴う理事及び監事の選任。
- 三 任期満了に伴う理事及び監事の選任。鈴木美保子評議員の後任として椋田俊邦評議員を選任。
- 四 理事の互選により片平理事を理事長に選任。
- 五 理事長から萩原理事を常務理事に指名。
- 六 理事の互選により片平理事を理事長に選任。
- 七 評議員会選任の理事及び監事に対する同意。
- 八 任期満了に伴う評議員の選任。鈴木美保子評議員の後任として椋田俊邦評議員を選任。
- 九 理事の互選により片平理事を理事長に選任。
- 十 理事長から萩原理事を常務理事に指名。

後援会会員募集

- 会費は個人一口、年1,000円から法人・団体一口、年10,000円から
- 会員には、新聞「そしん」をお送りします。
- 行事のご案内などをします。

会費の納入先

銀行振込は
 中南信用金庫国府支店
 014-0139723
 郵便振替はどこの郵便局でも00270-0-19507です。

口座名は
 社会福祉法人素心会後援会
 会長 鈴野七郎

※新しく会員になる方は
 ご住所を電話等でお知らせ
 いただくようお願いします。

事務局
 〒259-0103
 神奈川県中部大磯町虫窪 39-1
 素心会後援会
 TEL.0463-71-1255
 FAX.0463-73-0009



ありがとうございます
 ぽけっとまほ

平成二十年三月二十五日、日本財団様より百三十六万円の助成金をおいただきました。トヨタハイエースワゴンを購入しました。デイセンター開設当初より送迎等で十年間使用した車両に代わって大磯コープの送迎車として毎日運行しています。スライドドアが広く開き、乗降がとても楽になりました。また乗車定員が十名となり日中活動での利用も大いに期待されています。

ありがとうございました。
 (素心デイセンター 浅見 茂)

素心会事業所アドレス

| | | | |
|-----------------|--------------------------------|---------------------|---------------------|
| 素心学院 | 神奈川県中部大磯町虫窪 39-1 | TEL. 0463 (71) 1255 | FAX. 0463 (73) 0009 |
| 素心デイセンター | 神奈川県中部大磯町虫窪 18-1 | TEL. 0463 (71) 1256 | FAX. 0463 (71) 1284 |
| さざんかホーム | 神奈川県中部大磯町国府本郷 1308 | TEL. 0463 (61) 1519 | FAX. 0463 (61) 1519 |
| かもめホーム | 神奈川県中部大磯町大磯 1370-23 コープKYZF | TEL. 0463 (61) 5404 | FAX. 0463 (61) 5404 |
| つばきホーム | 神奈川県中部大磯町国府新郷 482-1 | TEL. 0463 (71) 0990 | FAX. 0463 (71) 0990 |
| シヤベルホーム | 神奈川県中部大磯町大磯 2232 | TEL. 0463 (61) 5281 | FAX. 0463 (61) 5281 |
| 地域支援センター そしん | 神奈川県中部大磯町虫窪 18-1 | TEL. 0463 (70) 3577 | FAX. 0463 (72) 2577 |

◆◆編集後記◆◆

平成20年は食料の問題が大きく取り上げられた。特に中国産の食料については、オリンピックがあつたこともあり記憶に新しい。しかし自分の着ている服も、タグを見ても中国製。ちなみに昨年一年を「字で表すと「変」という字になるらしい。変は変でも大変ではなく、今年こそ良い変化という意味で一年であってほしい。

(素心デイセンター 石森健太郎)

素心学院の移行と

素心会の事業体制

素心学院

施設長

萩原

勝己

素心学院は、平成20年4月1日障害者自立支援法の障害者施設(生活介護・施設入所支援)に移行しました。障害者自立支援法にはこれまでにない事業の仕組み、考え方がいくつか盛り込まれていますが、中でも入所施設は区分による利用制限と訓練の場から住まいの場への転換、昼間と夜間の事業区別、そして利用定員削減等これまでとは大きく異なる考え方が導かれました。このことにより最も危惧されたことは、現利用者が制度の変更により素心学院を退所せざるを得なくなる(こと)経営が立行かなくなる可能性が大いということでした。

一刻も早く問題解決の道筋を探すこと、見通しを立てることが法人の責務と、職員一丸となって取り組みました。保護者のみなさまにも多くのご協力をいただきました。おかげさまで、現利用者全員が制度改正のおおきを受けずに済む見通しが立ち、経営的

には予断を許さない状況ではありますが新制度に移行することができました。

この2年間の模索の中で不測の事態を招かないように取った措置は20項目を超えます。この取組そのものが最も大きな成果であったと思います。その分、利用者、職員には大変な思いをさせました。みなさんのおかげでひとまず大波を越えることができました。

(このことにより素心会の事業はすべて障害者自立支援法の事業となりました。また、地域に密着する中で新しい事業も増えました。前述の入所施設の在り方や地域生活支援等制度に鑑みた事業運営、経営の安定等課題は山積みですが、今の利用者と地域の方々を期待され続ける素心会であるように今後も積極的に時代の変化に向かって行きたいと思えます。

家族ペンリレ...

素心デイセンター...

早いもので渉が素心に通所しはじめて十九年目を迎えました。元の幼稚園、小学校、中学校、そして湘南養護学校と親子で頑張った時期もありましたが、今はもう二十七歳になって、彼は彼なりの人生を歩んでいるように思えます。

小さいころ、渉の兄が「こういふ子は特に皆に可愛いがられるようにならないといけないね」という一言で、素直な、善悪のわか

る子にと言てたつもりです。読み書き、ソロバンは大の苦手ですが、でも、今は私にとってとても素直な可愛い息子です。私の「うっかり」を「お母さんしっかりしてよ」と自分のことを棚にあげて注意してくれる頼もしい息子でもあります。

趣味は、旅行、テレビ観賞、テレビゲーム、ケータイを持つこと。家にいるときは、自分の部屋の掃除と、テレビは、ドラマ、歌、ア

西山 渉さん
西山 睦子さん(母)



ニメ、映画、サッカー、競馬とジャンルを問わず楽しんでます。

素心では「紙すき」の指導を受け、サッカーは素心のチームの一員に入れていただき、練習、ゆうあいピックに参加でき感謝しています。格好もサッカーの「アディダス」にこだわって極めていきます。これからはもっと、この子に笑顔が続きますように、楽しい人生が送れますようにと願うばかりです。

息子の宏明は昭和五十年生まれの三十二歳。自閉傾向があり多動でした。地元小中学校の特殊学級から養護学校高等部へ進み、寮

素心学院

- 施設入所支援
- 生活介護
- 短期入所・日中一時支援

素心デイセンター

- 生活介護
- 就労継続支援B型
- 日中一時支援

地域支援センター そしん

- グループホーム・ケアホーム
- 大磯町・二宮町相談支援事業
- 児童デイサービス
- 中高生放課後支援
- 居宅介護・移動支援

家族ペンリレ...

素心学院...

鈴木 宏 明さん
鈴木 久仁代さん(母)



野精華園を経て平成十六年に素心学院に入所しました。中学校と高等部ではバニックと何度もの「脱走」でハラハラさせられ、一度は茨城県の取手で保護されました。今は落ち着きパン作りにも取り組める様になりましたが、保護され連絡が来るまでの居ても立ってもいられない気持ちは忘れられません。おかげで少々事にはめげない強い母になりました。年齢も重ねました。宏明のことや私自身のことでも不安や心配は尽きませんが今できることをやるしかありません。宏明には素心学院という居場所が必要。

元気でおやかで、福祉の充実を願う誠実な母というのは少し欲張りでしょうか。



素心学院 利用者の会について

「三階から濡れた雑巾とか洋服が落ちてきて困ってます」「うんととそば、いっぺんに両方たべたい」

素心学院の利用者の会が発足して七年が経ちます。今、利用者が知りたい事は何か。困っている事や生活に役立つ事、知っていたきたい事は何か。どうしたら皆に分かり易く伝わり利用者中心となる会が開かれるか委員会で話し合っ

た。素心学院の利用者の会が発足して七年が経ちます。今、利用者が知りたい事は何か。困っている事や生活に役立つ事、知っていたきたい事は何か。どうしたら皆に分かり易く伝わり利用者中心となる会が開かれるか委員会で話し合っ

りスポットがあたる会にしたと設置しました。ご本人が意見を書いて投書しますが、支援員が会話の中で出た意見を代筆することも多くあります。

「要望BOX」に投書された内容はずべて解決、実現に向けて全力で取り組みます。寮や各委員会、栄養士、看護師など学院全体を巻き込んで協力を仰ぎます。また、必ず経過報告と結果を伝えていきます。最喜ばれた取組は、自動販売機のジュースの種類を委員の投票で決めたことです。

「次はいつあるの？」と声を掛けてくれます。これからも「何のため」を忘れずに楽しい利用者の会が開催できるよう支援していきます。

(素心学院 大塚 晃子)

美化センターでの 実習



大磯町環境美化センターへは、素心会から現在七名の利用者が実習に通っています。年齢も〇代から六〇代まで幅広く、作業内容もビンや缶、ペットボトルや発泡トレーの分別、事務所の清掃などを行っています。時には職員の補助としてペットボトルの回収車に同乗したり、粗大ゴミ(タンクや自転車など)をドラライバーなどの工具を使って分

解・分別したりと、美化センターの職員さんからも職員さんの「一人」として認めてもらい、それぞれ個々の能力に合わせた作業に取り組んでいます。美化センターは単に「働く場」として位置づけられているだけでなく、職員の方々からも能力や個性が認められていて、生きがいを感じる大切な場所になっています。

(素心テイセンター 鈴木 淳也)

グループホームでの生活



素心会のホームでは総勢二十六名の利用者の方が四ホームを利用し生活しています。内訳は、さんかホーム九名、つばきホーム八名、かもめホーム五名、シーベルホーム四名となっています。各ホームでの生活について紹介

「労苦等へ向かう慌ただしい雰囲気、また出勤を洗う方がいたりしこにでもある忙しい朝があります。夕方は、一日の仕事が終わわり、ゆっくりTVを見る人、入浴を楽しむ人、晩酌をしてお酒を飲み過ぎてしまう人もいます。休日は、ラーメンを食へに行く人、図書館に行く人、DVDを借りに行く人など、各人休日を楽しんでます。また、夕食の二時間前からイライラしながら待っている人、何時になっても夕食に来ない人、苦句に一時帰って来ない人などいろいろです。

各ホームとも基本的な日課はありますが、実際は利用している方々の生活パターンに合わせた日課としています。例えば、朝食の時間はそれぞれの出勤時間に間に合うように食事を摂れば良いわけではなく、時間に合わせて必要はな

いと考えています。それぞれの生活パターンを大切にしたいと思えます。

ホームでの生活と言いつても特別なことのない、何気ない毎日です。しかし利用者の方々にとって、その何気ない毎日が大切であると思います。私たちは、この何気ない毎日が五年、十年と続くよう見守りながら、時には寄り添いながら支えていけたらと思います。

(支援センター 高山 和宏)



素心学院

海岸美化清掃



大磯町の海岸(プリンスホテルゴルフ場下)清掃を始めたのは二十四年前、昭和五十九年です。当時も作業の一つとして月に四回程度実施していました。平成元年からは、(財)かながわ海岸美化財団から業務を委託して今日まで続けています。二十四年間という長い時間の積み重ねと地域の方の理解があることはとても誇りに感じます。海岸清掃の良さは、ゴミを汗や砂まみれになりながら拾

い、その後の海風がとても心地良く、参加者にとって特別な時間であることです。また、釣り人になりたく、「ゴミ男様」と声をかけていたたくとも多く皆の励みになっています。今後も海岸清掃を継続するために美化財団と連携を取りながら社会貢献という視点だけでなく、地域の方とのかかり合いの場と利用者の心に残る活動にしていきたいと考えています。

(素心学院 瀬戸 洋平)